

# 高温・少雨に関する農作物の管理について

平成25年8月2日  
営農支援課

## 《作物別の対策》

### ○普通作物

#### 1 普通期水稻

幼穂伸長期にあり下旬より出穂が始まるが、水不足となると収量の低下が懸念されるので、地域で話し合い計画的な配水を行う。

通水用の溝の設置（溝切り）や、ポリチューブの利用により少量の水を効率良く使えるよう努める。

#### 【水管理】

- ①水を最も必要とする時期であるが、田面が湿っている程度でも構わないので、2～3日毎の走り水程度（間断かん水）で間に合わせる。
- ②河口に近いところでポンプ揚水を行う場合は、海水の混入に注意する。

#### 【病虫害防除、その他】

- ①高温でウンカ類や紋枯病等が多発しやすくなるので、ほ場観察につとめ適期に防除する。出穂前には、穂いもちの防除を行う。
- ②穂肥の施用は湛水しているときに行う。

#### 2 大豆

茎葉伸長期にあるが、管理が不十分だと生育が抑制されるので適正な管理に努める。

#### 【除草、防除等】

- ①雑草が繁茂すると土壤水分や養分を収奪するので、中耕・培土を適期に実施し、除草に努める。
- ②土壤の著しい乾燥が続いている場合は、一時的に畦間に通水する。
- ③ハスモンヨトウ等の発生に注意し、適期防除を行う。

### ○野菜（果菜類）

#### 1 雨よけ栽培

収穫期であり、栄養成長はもちろん花芽の形成や開花交配、果実の肥大成熟と各生育ステージが混在する重要な時期である。土壤水分の確保とともに、ハウス内気温や地温の上昇抑制等の対策を行う。

- ①高温強日射による植物体からの蒸散量が例年より多いと予想されるので、土壤水分や生育状況には細心の注意を払い、状況に合わせてかん水はこまめに行う。  
また、ハウス内は湿度の低下が激しく、しおれやすくなるため、通路等へ散水し湿度低下を防ぐ。
- ②ハウス内の温度上昇を防ぐため、日中の光線の強い時間帯に遮光率30～50パーセントの資材を用い遮光を行う。
- ③白黒ダブルマルチや、敷きわらを厚く敷くなどして、地温の抑制と土壤水

分維持に努める。

- ④ 土壤水分不足や根の活力低下、地上部の生育スピードに根の発育が追いつかない等により、トマト、ピーマンの尻腐れ等の生理障害の発生が多くなるため、必要に応じて石灰や微量元素を含む葉面散布剤等を施用する。
- ⑤ 収穫後の品質低下を防ぐために、収穫は早朝の品温が上昇しない時間帯に行う。また、草勢の低下を防ぐために、果実は小さ目で収穫を行う。
- ⑥ 高温乾燥により、草勢が衰えるだけでなく、病害虫の発生が多くなるので防除の徹底に努める。

## 2 露地栽培

- ① 土壤乾燥防止のため、かん水を行うとともに、地温抑制のための白黒ダブルマルチや敷きワラを行う。かん水は日中に行うと、地温の上昇を助長するので日中のかん水は避け、早朝や夕方に行う。
- ② かん水として、畦間への湛水も有効であるが、この場合も夕方から早朝にかけて行い、気温上昇前には落水する。
- ③ その他の管理としては、雨よけ栽培の④、⑤、⑥に準じて行う。

## ○野菜（根菜、いも類）

### 1 共通

乾燥により生育遅延や草勢の低下、害虫の多発が予想される。また施肥の効果が出にくくなるので、井戸や畑かん施設が整備されている地域では適量のかん水を行う。

### 2 かんしょ

かんしょは生育～収穫期であるが、日中しおれが激しく出る場合は、いも内部の褐変などの生理障害が発生しやすくなるので、かん水を行う。1度に多量にかん水するといもが裂開する場合があるので、2～5 t / 10 a 程度を目安に複数回行う。

### 3 さといも

早生種は生育期～収穫期、中生種は生育期である。乾燥により根が枯死すると茎葉も枯死するため生育遅延がおこる他、水晶芋や芽つぶれなどの生理傷害も生じやすく、生育が回復した後も二次肥大による奇形が発生しやすくなるので、定期的にかん水を行う。かんしょよりも水を多く必要とするため10 t / 10 a 程度を目安に複数回行う（通路に流し込むぐらいのまとまった量が必要）。

### 4 にんじん、だいこん

播種期を迎えるが、干ばつにより土壤水分が不足するため著しく発芽率が低下する。畑かん整備地域では30 t / 10 a 程度かん水後に耕耘播種を行う。

### 5 病害虫防除

- ① 乾燥が続いており、普段は薬害のでない薬剤でも薬害が出やすくなるため、薬剤散布の前日は作物にかん水し、薬害を防止する。
- ② アブラムシ、ダニ、鱗翅目幼虫が多発しやすいので、発生初期から薬剤散布を徹底する。

## ○果樹

### 1 共通

#### 【かん水】

- ① 乾燥により果実肥大の低下が見られるため、用水の確保に努め、適宜かん水を実施する。
- ② 極端な乾燥下では、土壌表面へのかん水は根域に到達しない場合があるため、動力噴霧器でのかん水を行う場合は、土中にかん水ノズルを差し込んで直接根域にかん水する。
- ③ 温州みかんで成熟期が近づいているものでは、急激な土壌水分の変化で裂果が起きることがあるので、少量ずつのかん水を実施する。

#### 【ハダニ対策】

乾燥時に発生しやすいハダニ類については、発生動向に注意し、早めの防除を実施する。

#### 【土壌乾燥防止】

土壌の乾燥防止のため、草刈り、敷き草を行う。クリにおいては収穫準備にもなる。

### 2 露地かんきつ

- ① 日焼け果発生軽減のために、炭酸カルシウム水和剤等の散布により果皮の温度上昇対策を行う。
- ② 袋かけを行うかんきつについては、早めに実施する。

### 3 施設果樹共通

- ① 果実や新梢の日焼け、旧葉の極端な落葉等が見られる園では、施設サイドを解放し、循環扇等を利用して通風を図るとともに、遮光資材による施設内の温度低下を図る。

### 4 施設きんかん

- ① 高温による結果不良を防ぐために、遮光資材による遮光、かん水による施設内の温度低下を図る。

## ○花き

### 1 共通

用水を確保し、生育に応じたかん水を実施する。用水の確保が難しい場合は、通路に敷きわら等でマルチを行い、土壌水分の蒸発をできるだけ抑える。

### 2 キク

乾燥・高温の影響で開花が前進化することがあるので、気温が高い時間帯は、寒冷紗等の遮光資材を被覆し、頭上散水や循環扇等を利用し、乾燥防止とハウス内気温の低下を図る。

露地の親株ほ場については、乾燥、高温の影響による不萌芽や生育不良により充実した穂が採れない恐れがあるので、適宜かん水を行う。また、設置が可能な場合は遮光等により葉温、地温の低下を図る。

### 3 シキミ

今春に植え付けた1年生幼木については、乾燥による枯死や生育不良が懸念されるので、かん水を実施するとともに、根元に敷きわらを行い土壌の乾燥を避ける。また、乾燥状態が続くとハダニ等の発生が多くなるので、早期防除を実施する。

## ○特用作物

### 1 茶

うね間に敷草をして土壤水分の蒸発を防ぐとともに、断根を伴うような深耕は行わない。

用水が確保できる場合には、成木園では7日おきに30 t / 10 a、幼木園では5日おきに20 t / 10 aを目安に、株元まで水が届くようにかん水する。

なお、中切りや深刈りを実施した園や幼木園では、干ばつの影響を受けやすいので、優先してかん水を行う。

## ○畜産

### 1 畜舎の管理

- ① 日中は畜舎の壁や窓、カーテンを全面開放して通風に努める。  
畜舎の周りの除草をこまめに行い、畜舎内の熱を排出する。
- ② 「よしず」や「寒冷紗」を利用して直射日光を遮る。
- ③ 高温時間帯の屋根への散水、工業用消石灰の塗布は畜舎内温度の低下に効果がある。
- ④ 畜舎内の整理整頓を心がけ、通風を妨げないようにする。
- ⑤ 乳用牛は、ヒートストレスメーター（THI）の数値を常時確認し、早期の暑熱対策を行う。

### 2 家畜の管理

- ① 送風器具（換気扇、扇風機、ダクト等）、細霧装置を利用して家畜の体感温度を下げる。夜間の送風も体温低下に効果がある。
- ② 常に新鮮な水を十分飲水できるようこころがけ、給水器、水槽はこまめにチェックする。また、井戸水等を利用している場合は枯渇に注意する。
- ③ 密飼いを避け、家畜をストレスから守る。
- ④ 夜間等の涼しい時間帯に飼料を給与し、ビタミンやミネラル類の多めの補給に努める。
- ⑤ 牛には細かく細断した良質な粗飼料を給与し、食欲の低下を防ぐ。
- ⑥ 家畜の行動を良く観察し、異常畜の早期発見・早期治療に努める。